

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
高きに和す 笑顔あふれる チーム兵庫	①心の教育を推進する ②学力向上を目指す ③地域を愛する子どもを育てる

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

① 心の教育を推進する

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	人権・同和教育の充実	・年間指導計画に沿って人権教育や道徳教育を計画的に行うと共に学校生活全般にわたって、指導していく。 ・縦割り活動などを通して互いに認め合い、人とのかかわりを大切に子どもを育てる。	・道徳性の育成に資する体験活動を推進し、道徳実践力の向上を図る。 ・ふれあい道徳として、参観日に道徳の授業を公開し保護者・地域の方に本校道徳教育の理解を求める。 ・月初めに「いじめ・いのちを考える日」を設定し、相手を思いやることの大切さを考えさせる場を設ける。 ・出番、役割、責任、承認を通して自己肯定感を育む。	A	・道徳性の育成のために、命の授業や情報モラルの授業などを行い、道徳実践力の向上が図れた。 ・ふれあい道徳では、各クラスの授業を事前に一覧表にして「ふれあい道徳便り」として保護者に配布し、参観の参考にしてもらった。 ・「いじめ・いのちを考える日」では、毎月その前後に各学級で指導を行った。また、指導した内容を各学級ごとに記録し、その後の指導に有効であった。	・6月の人権・同和教育授業実践交流会で他校の感想を集めて、指導に生かすようにしたい。 ・いじめ・いのちを考える日の指導について、同学年や他の学年でどのような指導を行ったのかを交流する時間を確保して、次の指導に生かしたい。 ・リーダーとなる6年生に、事前の準備をする十分に確保し縦割り活動を実施させたい。そうすることで、自信をもって活動し、承認してもらえる機会が増えると思われる。
教育活動	●いじめ問題への対応	人権教育の充実	重点指導事項(2つ) ①『ほかほか言葉』を使う児童を90%以上にする。 ②友達には「さん・くん」をつける児童を80%以上にする。	毎月、心のアンケートを実施する。 ・毎月保護者へのアンケートを行い、実態や要望を把握する。 ・人権教室・人権週間を定期的に行う。 ・全校朝会において約束事について指導し振り返らせる。 ・各学期の始業式の日「レインボー作戦」の指導を全校で行い、その後各学級で指導を行う。	A	・児童への心のアンケートと保護者への生活アンケートを毎月実施し、児童の実態把握や保護者の意識把握に役立った。 ・毎学期の人権教室により、相手の気持ちを思いやる児童が増えた。 ・『ほかほか言葉』を使う児童が94%となり、昨年度より言葉遣いへの意識が高まった。 ・友だちに「さん・くん」をつける児童が90%になり、意識の高まりが見られた。 ・学期初めの全校指導による「レインボー作戦」を受けて、各学級での指導に活かすことができた。 ・教育相談週間を各クラスで実施し、一人一人とじっくり話すことができた。	・保護者へのアンケートを毎月実施したことで学校では分からないことに早期に対応することができた。来年度も引き続き実施していきたい。 ・児童が主体になって「レインボー作戦」を行ったことにより、児童の意識が高まったと思われる。来年度も引き続き意識の向上を目指し、全校での話を受けた後、各学年、各学級で取り組んでいく。
教育活動	○特別支援教育	特別な配慮が必要な児童への支援の充実	配慮が必要な児童の「個別的教育支援計画」をもとにして、個別の指導計画を作成し、指導に活かす。	・継続的指導が必要な児童に加えて、新たに配慮を要する児童の支援計画を作成する。 ・個別の支援会議や校内研修で児童の支援方法についての共通理解を深め、具体的な支援に生かす。 ・「障害のある子どもの学校生活支援事業」による巡回相談員や外部専門家を招いての研修会を随時行う。	A	・配慮が必要な児童は、個別の支援計画を作成して支援に生かすことができた。また、その計画をもとに、適宜支援会議を開き、共通理解を深めることができた。 ・配慮が必要な児童に関して全職員で共通理解する場を年2回4月、9月に設けたことで、より良い支援へ結びついた。 ・県の巡回相談を利用することで、児童の具体的な支援方法を知り、支援に生かすことができた。 ・木田版チェックシートを使って年2回児童の実態を把握を行い、支援に生かすことができた。	・個別の支援計画を記入する箇所をプリントで示し視覚化したり、記入締切期間を短期間に設定したりしたことで、確実に記入に結びつけることができた。 ・県の巡回相談を利用して支援に生かすことができたので、次年度も引き続き利用し、更に外部専門家を招いた研修なども取り入れていきたい。 ・特別支援教育関係の研修会や巡回相談等で学んだことの共有を進めるため、資料等を印刷し職員に配布することで共通理解を図っていききたい。

② 学力向上を目指す

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	算数科の学力向上	・単元ごとに評価テストを実施し、各学年の達成率の平均を80%以上にする。 ・学年に応じた家庭学習時間を達成する児童を90%以上にする。	・算数科における研究授業を全職員で行い、課題意識を高める工夫や話し合いが深まる授業の工夫をする。 ・4、5、6年生の算数の学習において毎時間2Tとし、少人数授業を多く取り入れ、きめ細かな指導ができるようにする。 ・4月に実施する全国・県の学力・学習状況調査の分析結果から、校内研修会で児童の実態を把握し、指導に生かす。 ・スキルタイムを毎週行い、計算力の向上を図る。 ・家庭学習の手引きを配布し、家庭と連携して家庭学習の習慣を身に付けさせる。 ・年間を通して4回の「家庭学習がんばろう週間」を設け、家庭と協力して家庭学習の習慣化を図る。	A	・算数科では、少人数担当が担任と連携し、校内研究のテーマである「課題の工夫や話し合い活動の充実」に日々の授業でも研究を深めてきた。また、全員授業で個々の指導力が向上するよう努めてきた。単元毎の評価テストの平均は90%を上回った。 ・全国・県の学力・学習状況調査の結果から、各学年の学力を分析し、弱点と思われるところは関連する単元や復習の時間に繰り返し指導し補強した。 ・「家庭学習がんばろう週間」では、保護者アンケートに加え、今年度より児童のチェック表を作り、児童の意識を高めることに努めた。家庭学習時間を達成した児童は昨年度よりも4%上回り約98%となり、学力向上につながった。 ・学習のルールの重点目標を決め、全校集会でプレゼン、ポスター掲示、放送、アンケート等様々な方法を使って徹底を図った。全校で共通理解して指導にあたったことで、授業態度が向上した。	・今年度の校内研究を継続し、来年度は、話し合い活動の充実のために、話し合いの仕方やノートのとり方を具体的に示す。4月にノート等に添付させ、学年当初から教師も児童も共通理解して進めていけるようにする。 ・担任と少人数担当が密に連携し、習熟度別少人数授業を積極的に取り入れ、各クラス、各単元で効果的な指導を行っていく。 ・スキルタイム(のびのびタイム)の内容を再検討し、児童の実態に合わせて、基礎・基本が身につくような内容にしていく。 ・授業だけでなく「家庭学習」や「学習のルール」など、子どもの家庭生活・学校生活における基本的な生活態度の改善も継続する。
教育活動	●ICT利活用教育の推進	全教諭に対しICT教育に関する指導力の向上	・各教室に配備されたIWBを、年間授業日数の80%以上の稼働をめざす。 ・デジタル教材や機器についての操作技能を高める。	・夏期休業中にICT支援員による校内研修会を開き、IWBを中心とした情報機器のより効果的な活用方法を検討する。 ・授業に有用なアプリケーションの操作について知り、動画などの視聴覚教材をより多く活用できるように情報を共有する。	B	・校内研修では、授業での活用が多い、パワーポイントのシート作成について、最新バージョンの基本操作や機能について習得できた。また、新しいデジタル教科書や学習探検ナビなどのデジタル教材の内容も、機会ごとに活用しながら把握できた。 ・各教室のIWB稼働率は、年間授業日数の約93%で、目標値を大きく上回っているものの、クラスによって稼働の偏り大きい。全てのクラスでの有効活用を目指していきたい。	・IWBの有効活用のため、全クラス、朝教室に入ったら、パソコンを起動する習慣を徹底したい。 ・デジタル教材の活用について、職員間で情報を共有し、時間や学習活動ごとに、IWB活用のパターン化を図りながら、より有効なICT利活用を検討する。
学校運営	○学年・学級経営	学年・学級経営の充実	・PDCAサイクルを取り入れたり、Q-Uテストの結果を活かしたりして、学級経営に生かす。 ・学年の協働意識を高め、職務の効率化と児童への指導の充実を図る。	・学級経営案を公表し各自の取り組みに対して意識化を図る。 ・木曜日の学年会の中で、情報交換や協議を行い、共通理解に基づいた協働を推進する。	A	・夏期休業中に、Q-Uテストの結果の分析を全ての学級で行い、2学期以降の学級経営の手立てを考えることができた。アンケートの結果を基にした学級作りをしていると答えた職員は、「大体できている」を含め100%である。 ・学年主任を中心とした体制がきちんとできており、事象が発生した時には学年主任を中心に動く事ができている。	・Q-Uテストの2回目を行うことで、手立ての有効性が確認できる。行うことができない場合は、「より良い学級作りのためのシート」を用いて、個人で検証をする。 ・学年での情報交換や、学年対応の時間がきちんと取れるように時間を組み入れる。
学校運営	○教職員の資質向上	教職員の資質向上・サービス規律の保持	・評価・育成システムを活用し、職務遂行を通して、人材育成・能力開発を図る。 ・講師招聘の校内研修会を行い、指導力の向上を図る。 ・サービス規律保持に関する事例研修会を行う。	・年間授業計画をもとに、全員授業研を実施し、授業づくりを全職員で行うとともに、授業の視点を共通理解し参観するとともに、授業研究会で成果・課題を整理し、日頃の授業実践に生かす。 ・いろいろな事例等を連絡会や職員会議でも紹介し、職員の意識を高める。	A	・全員が指導案を書き、校内研究の一環として授業を行い、授業の工夫・改善につながった。授業の視点を共通理解して参観をすることができたので、後の研究会も活発な意見交換をすることができた。 ・具体的な事例を出して服務規律に関する研修会を行った。今後とも、継続的に行っていく必要がある。	・学習状況調査の結果では、県の平均をどの学年を上回っているものの、学年間の差が大きい。お互いの技術を学ぶことができるようOJTを進める必要がある。 ・時期に合わせて、今最も必要なサービスの研修は何かを計画的に研修を行う。

③ 地域を愛する子どもを育てる

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○総合的な学習	総合的な学習の充実	・総合的な学習の中で、地域の人・もの・こととの学習を盛り込み地域のすばらしさに気づかせる。 ・町内福祉施設や保育園・幼稚園との交流を通して共生社会の一員としての自覚を育てる。	・各学年に応じた総合的な学習の中に、地域人・もの・ことに関する内容を盛り込み、児童の体験による学びの場を保障する。 ・学校便りやホームページ等で地域への子どもたちの関りを積極的に情報発信し、地域と子どもたちとの密接な関係を作り出す。	A	・総合的な学習の中で、公民館を訪問し、地域の高齢者福祉施設を訪ね学習発表やゲームをしたりして交流するなど、地域の人やものについて学び、そのよさに気づかせることができた。また、その様子を学校通信や、ホームページ等で随時公開することができた。 ・事前、事後学習を含めた入念な計画を立てることで、充実した活動となる。	・施設を訪問する際には、学習内容や時間的なことなど充実した内容にするためには、訪問先の担当者や連絡や打ち合わせを十分にすることが大切である。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体力づくり	運動習慣の改善や定着化 望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	・休み時間には、外に出て元気に遊ぶ児童を育てる。 ・児童・保護者に食の大切さの認識を高め、朝食の喫食率を90%以上にする。	・兵庫小の合い言葉や学年ごとに作成した指導計画にもとづいた指導を継続して行う。 ・生活重点月目標を設定し、集会の講話や掲示資料を活用した指導を行う。点検表による調査結果を児童への動機にしていく。 ・生活アンケートを行い、実態を把握し、学校だよりや学年通信を通して保護者への啓業を図る。	A	・全校的に放送で呼びかけたり、たてわり遊びを実施したりしたことで、大多数の児童が外に出て遊んでいた。 ・朝食喫食率90%となり、やる気の向上につながった。 ・朝食の効果や大切さを学ぶ授業を学活や家庭科で実施。「早寝早起き朝ご飯」を合言葉に、朝ご飯チェックシートを実施し、朝ご飯を取る習慣づけを行い意欲を高めた。	・クラス全体やたてわりグループで遊ぶ機会をさらに増やして、交流の場を設け外遊びへの意欲を高める。 ・取り組みを継続させていく。朝食をとれない児童については、朝食欲が出るための生活習慣の見直しを図り、保護者に協力を呼びかけていく。

●は共通評価項目、○は独自評価項目